

NEW TOPIA

N.146

2026 1.15

新しい(NEW)理想郷(UTOPIA)

にゅとぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより

INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION OF KISHIWADA

新春
対談

「岸和田市の
国際交流のこれから」

特集

ふれあい交流祭り
ブース報告

特集

姉妹都市SSF市訪問団来岸
ホームビジット&歓迎会開催

●ゲスト体験コメント

連載

English Open Café

●スペイン ●フィリピン

連載

世界の民族衣装
トルクメニスタン編

岸和田に暮らして

●イタリア人高校生 マリルさん

外国人のための
譲渡会&交流会



Since 1989

にゅとぴあ
岸和田市国際親善協会

「エリトリアのシラジさん、着物に袖を通す。」

表紙デザイン Shinako Abue

「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通して互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。





「岸和田市の国際交流のこれから」

新しい年を迎え、最近特に外国人住民が増えている中での国際交流について、岸和田市国際親善協会の会長の井上實さんと、モンゴル出身で来日10年、小学4年生を筆頭に3人のお子さんのお母さんであるゴアマラル・ツウメンジャルガル (Guamaral Tumenjargal) さんに語っていただきました。

岸和田市国際親善協会
会長 井上 実



モンゴル出身／来日10年、3児の母
ゴアマラル・ツウメンジャルガルさん
(Guamaral Tumenjargal)



司会：ゴアさん、小学生のお子さんの日本語のことで困っていることはありますか？

ゴア：どんな人が教えてくれるのですか？

ゴア：子供が宿題のプリントを持って帰ってくるのですが、子供も日本語がよくわからないこともあり、どうすればいいのか私に聞いてくることがあります。でも私も難しい日本語の文章だとわからず、教えてあげられない時は困っています。

井上：当協会では「日本語ボランティア」として独自に養成しています。2年間の講座を受講した会員が指導しています。

井上：教室の中で日本語で困っているお子さんの為には、岸和田市の教育委員会から依頼を受けた学校に「日本語指導補助員」として、岸和田市国際親善協会(以下:当協会)が会員を派遣しています。現在当協会から8名の会員が、市内の小・中学校9校で活動しています。



右：ゴアさんとナランフー君（1才）
中央：井上会長
左：三森さん（日本語ボランティア17期生）

ゴア：大人の私たちが日本語で困っている時はどうすればいいですか？

井上：社会人や主婦の方の為に当協会では、市内5か所で「日本語サロン」を開催しています。サロンという名称で日本語の学習を通じて日本での生活や文化の理解を深めて交流を図っています。

ちなみに当協会は本年2026年で創立37年を迎えますが、設立当初からこの日本語サロンの活動をしています。最初の生徒さんは中国からの残留孤児の人たちが中心でした。

ゴア：日本語は漢字が難しいし、尊敬語とかの使い方を教えてもらえることはとてもうれしいし安心です。

井上：現在、先ほど述べた日本語を指導する日本語ボランティアの17期生の養成講座が実施されています。今年10月には、講座を修了し、日本語サロンや各小学校に派遣される予定です。

岸和田で生活する外国人およびその子供たちが不安なく日本語の生活ができるように、ますます当協会も活動していきます。

司会：今日は、ありがとうございました。

表紙イラストの ご紹介

2026年の冒頭を飾る今号の表紙モデルは、着物姿がとても素敵なエリトリア出身のシラジ (Mohammed Sirag) さんです。彼は岸和田市の小中学校のALT (Assistant Language Teacher) です。



Elena Martin Turnes (エレナ) さん

スペイン

2025年 10.18.土

スペインのマルティヌ・エレナさん、素敵な笑顔でていねいな英語で親切に、スペインの、特にアンダルシア地方の文化や成り立ちを教えてくださいました。エレナさんは、生物化学の高校教師をしておられ、オーストラリアなど英語圏にも何度も滞在され、今回は、大阪万博のスロバニア館のスタッフとして活躍された後、私たちのところに来てくださいました。日本の茶道に深い関心を持たれ、万博後に京都で茶の湯に親しまれるそうです。

エレナさんの活躍の地、アンダルシアはスペインでも特に独自の風土、文化がしっかり残存し、かつ伝承されている地で



フラメンコを紹介

あることがよく分かりました。かつてイスラム教が盛んであった地にキリスト教の勢力が押し寄せた経緯が文化や生活に色濃く残っていることが分かりました。ピカソが輩出され、有名なイス

ラムのアルハンブラ宮殿があり、フラメンコの発祥の地であることが改めて認識させられました。

エレナさんから教えられたパエリアやタパスなど、スペイン料理が食べ became くなりました。(横谷俊一)



エレナさん

スタッフだった万博で



Lovely Adolfo Jumao-as (ラブリー) さん

フィリピン

2025年 11.15.土

今月のゲストはラブリー・ホマオアスさん(29歳)です。

昨年四月に来日し、岸和田市内の小中学校でALTをされています。出身地はフィリピン、セブ島です。

クイズを交え、日本と対比しながらフィリピンについて紹介してくれました。

陽気な国民性で、最近起こった地震や台風等の災禍に見舞われても皆、笑顔を絶やさず過ごされているそうです。

又、助け合いの精神が根付

いており、家族をととても大切にされています。ただ、家族への金銭的援助については親世代とのギャップも感じるとのことです。これについてはリ

スナーからも色々な声が上がっていました。

身近な国ですが、発見が多く、楽しく学べた時間でした。

(尾崎順子)



クイズで盛り上がります



ラブリーさん

にゅ〜とぴあ 146 便

世界の旅

今号で登場・ご紹介いただいた皆さんのお国を紹介します。

毎号、日本・岸和田市と世界の国々をつなぐ架け橋として交流を深めてまいります。



スペイン



フィリピン

ホームビジット&歓迎会開催

9月18日(木)、姉妹都市のサウスサンフランシスコ市から訪問団の皆さんが来岸され岸和田市国際親善協会で開催いたしました。

また、2025年日米姉妹都市サミットへの出席や大阪関西万博訪問のスケジュールとともに、当協会会員の皆様のお宅へホーム・ビジットしていただきました。訪問団の皆さんからのコメントと写真をご紹介します。



■ Francis & Jason McAuley

フランクさん&ジェイソンさん

Jason and I really enjoyed the home with the Inoue family.

It was such a great idea as an activity. An opportunity to bond with each other and appreciate the Japanese culture up close. Jason was impressed by the reception he received and the tour of the house and the display of Japanese dolls.



■ Buenaflor & Nenar Nicolas

フロウさん&ネナアさん

Our visit to the Terai family was very enlightening!

It gave us insights on how a "normal" Japanese family lives. We found many similarities regarding family life and our aspirations that forged deeper "sisterhood."

My husband and I learned and further appreciated the Japanese culture and how they handle situations because of deeply rooted traditions.



■ David Kessell and Norma Middleton

デイヴィッドさん&ノーマさん

We enjoyed and learned from the friendly and hospitable visit with Mr & Mrs Uno. They drove us to their house and served cold delicious Japanese noodle snacks and fresh slices of round eggplant.

Mr. Uno played the flute with American & Japanese music. They also shared with us their backgrounds and careers and current activities. We very much appreciated the tour of their house and the flexible wise use of the spaces, We felt so welcome and touched by the simplicity of living and the window into the lives of a Japanese couple near our age.



■ Ricardo & Gustavo Benavides

リックさん&グスタヴォさん

The Sugiyamas were wonderful hosts. They live near a large garage that houses one of the Dunjuris. Bill and I watched repairs being made.

We were also taken to the Temple. Back at their home, we were introduced to one of their neighbors. She was delightful and we spent time savoring appetizers, conversing and singing.





■Randall & Gale Yip

ランデルさん&ゲールさん

We feel so deeply grateful for the warm hospitality and precious time we shared with both Keiko Nakamura and Shoko Kojima. Seeing Shoko again was especially meaningful—she was our one-on-one host during the Sister Cities visit in 2023, and reconnecting with her brought back such joyful memories.

Keiko welcomed us into her home with such kindness, and the hours flew by as we laughed, shared stories, and discovered how much our lives have in common—our families, our cities, our volunteer work, past careers, and hobbies. To our dear friends in the Kishiwada Sister Cities Association—thank you.

This morning was more than memorable; it was a gift.

We will treasure the time, the friendship, and the generous hospitality always.



■Amy & Stuart Alexander

エイミーさん&スチュアートさん

Our time in Kishiwada was truly memorable thanks to the incredible warmth of the Yukimoto family. They welcomed us with kindness and openness that immediately made us feel at home, shared wonderful family photos from their trip to the U.S., and filled our visit with much laughter.

We appreciated the candor and honesty they showed, as well as insight into their everyday family life in Japan. The kindness and thoughtfulness they extended created an experience we will always treasure, and we look forward to returning their generosity in the future.



ホーム・ビジット後、お寄せいただいた皆さんのコメントの日本語翻訳文は、当協会のFacebookでご覧いただけます。右QRコードのリンクからご覧ください。



世界の民族衣装



トルクメニスタン編

トルクメニスタンの民族衣装



トルクメニスタンは中央アジア南西部に位置する共和国です。

真紅の民族衣装が美しく映える留学生ミャフリさんは、絹や綿のクイネク(koynek)と呼ばれるロングドレスの上に、フルテ(kurt)という短いジャケットを羽織っています。

色はミャフリさんのような赤系がもっとも多く、ほかに深緑、青、黒など。袖口と胸元に部族ごとの刺繍(ギウル模様)が施されています。また魔除けと繁栄の象徴である銀製のアクセサリーが重視され、髪飾り、胸飾りなどを多く身につけるそうです。暑さ、寒さ両方に対応できて、中央アジアの遊牧文化とイスラム文化が融合した華やかで実用的な装いですね。

写真の帽子は、以前、Uさん宅にホームビジットしたトルクメニスタンの外交官男性からUさん夫妻にプレゼントされたタワヤ(Turkmen skullcap)です。



白が男性用、黒が女性用だそうです。こちらも日差しから頭部を守るだけでなく、びっしりと施された伝統的な模様刺繍による魔除けの意味が込められています。

Uさん夫妻が昨年のお阪・関西万博で真っ先にトルクメニスタン館を訪問したことを聞き、ホームビジットを通じた国際交流って本当に素敵だとうらやましく思いました。(新矢由紀)

国際交流基金 関西国際センターで「ふれあい交流祭り」が開催されました。
岸和田市国際親善協会のブースは「私の漢字（色紙に一文字）」を企画しました。



うまく
書けたよ!



漢字、
むづかしいー



地元の
キャラクターも
参加して
いました



民俗衣装のファッションショー

外国人のための譲渡会&交流会

2025年 08.24.日

8月24日(日)、外国人のための譲渡会と交流会を行いました。初めての取り組みでしたので、品物は集まるのか、外国人は来てくれるのか・・・など不安でいっぱいの中迎えた今回の取り組みでした。



熱気いっぱいの会場



ありがとうございました!
大事に使います!

しかしスタッフの心配をよそに、40名を超える会員の方々から衣類や食器、傘、かばん、おもちゃ、着物、家具（写真で案内し、後日譲渡）など、たくさん寄付していただき、机の上に並べきれない

ほどの品物が集まりました。

当日は10時にスタートし、一人、また一人と外国人の方々が来られ、またお友達にお声掛けくださり、午後には会場がいっぱいになるくらいで、合計35の方が来ていただきました。みなさん楽しそうに選んで、たくさん持って帰られました。

「ありがとうございました!大事に使います!」の言葉にうれしくなりました。

ご寄付いただいた皆様、お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました!

(事業部会 谷早苗)

10月からカンガルー英語クラブの名称が変更となり、講師も新しくなりました。新しい講師はアメリカ人のブレント・ニールセンさんで、クラスの名称は「Advanced English Club」です。開講日は第1・3 水曜日13:30-15:30です。

クラスの進め方は、事前にニールセンさんから送られた資料に沿って進められます。

資料には当日使うTEDのURLもあり、事前の予習が必須です。

クラスは10数名のメンバーですが、みなさん事前の予習もしっかりされており、ニールセンさんの質問にもそ



ニールセン先生

れぞれの英語のレベルは異なりますが答えています。

講師のニールセンさんも、米国でのコンサルタントや、ビジネスの豊富な経験から、やさしく答えて、フォローしてくれます。

筆者は、メンバーの中では一番劣等生ですが、楽しく英語を使って自分の意見を言えるようになりたいと思っています。(内田満弥)



クラスの様子

日本語サロンレベルアップ講座を受講して

2025年 11.29.土

私は2回目の参加ですが、前はグループワークで、お互いが使っているテキストや教材の紹介をしたり、どの様な使い方をしているとか、困りごとを話し合ったり、アドバイスを先輩から受けたりしました。

今回は講習会形式だったので少し構えて参加しましたが講師は大阪YWCAの坂本由美子先生でとても分かり易かったです。

始めに自分たちの外国語学習の苦労したこと、楽しかったことについて、グループで話し合いました。皆さんやっぱり自分の言葉が通じたり、相手の言っていることが分かった時は、とても嬉しく達成感があったとの結論になりました。

坂本先生は『サロンに來ている学習者もきっとそういう気持ちです』と言われ、私も『なるほどなあ』と思いました。

「受身」と「使役」の講義では活用形や意味がややこしいなどを説明していただき、主語と動作主が違うなど教わり分かり易かったです。特に助詞がややこしい所



は、ちょうど今、私がサロン生と勉強している最中なのでとても参考になりました。

それと英語的な言い方は間違いではないけれど、日本語ではそうは言わないなどと教えるようにとアドバイス頂きました。

「オノマトペ」に関しては具体的に品物で学習、お菓子の袋に書いてある「パリパリ、さっくり」、その他の日用品で、「ピッタリ、しっかり」等々。それと漫画の中はオノマトペだらけということと、学習に役立つ本の紹介もありました。

私が心に残ったことがあります。

『広く浅く』より『狭くても深く』のほうが『できた感』が味わえること。今回の受講を生かして自分なりに楽しく教えられるよう工夫したいと思いました。

とても有意義で楽しい講座でした。今後も定期的にあれば嬉しいです。

(加部 満由美・福祉サロン)



マリア・ラウラ・デウリウスさん (イタリア)

イタリア人のマリア・ラウラ・デウリウスさん(ニックネームはマリル)は現在大阪府立和泉高校の1年生です。2025年の8月から留学生として、岸和田市内のHさん宅にホームステイをしています。

出身はヴェネツィアから北へ約60kmの距離にある、ヴィットリオ・ヴェネト。



和泉高校の校門前で

★ホストファミリーと最初にあった時は

東京から新幹線で新大阪に着くまでは心配で心配で泣いていましたが、ホームでホストファミリーのHさんたちと会った時に、その涙はうれし涙にかわりました。

★最初に覚えた日本語は

「こんにちは」「ありがとう」イタリアでパソコンのアプリケーションで勉強しました。



文化祭の準備



ホストファミリーと対面

★和泉高校とイタリアの高校のちがいは

	イタリアの高校	和泉高校
授業	午前中だけ	午後もあって大変! 「起立、礼」で始まるのに驚いた
制服	もちろんない	かわいいから大好き
クラス	16人だけ/でも、にぎやかでうるさい。 時々先生と「ファイト」することもある	41人もいる/でも、みんなまじめでとても静か。先生の話をしっかり聞いている



ホストファミリーと

マリルさんは、イタリアの太陽のようにキラキラ輝いています。ホストファミリーのHさん一家の小学生のお嬢さんともまるで姉妹のようです。日本語も流暢で、このインタビューもほとんど日本語で行うことができました。毎日の学校生活の楽しさが彼女の話ぶり、手ぶり、目の輝きから伝わってきます。

最後の質問の「将来は?」の答えは即答で「しらない。」その答えに「えっ」と少し驚きましたが、「これからもっといろいろなことを経験し、学んでその結果としてマリルの将来があるのよ」という無限の可能性を秘めた言葉でした。

Informations

■KIX 泉州国際マラソン大会招待選手と 随行者歓迎交流会

中国上海市楊浦区と汕頭市からの選手・随行者をお迎えして交流します。

(と き) 2月7日(土) 17:30~19:30

(ところ) 浪切ダイニングby和食屋 庄八(浪切ホール1階)

(対象) 日韓親善協会・日中友好協会・岸和田市国際親善協会の会員

*詳しくは、チラシをご覧ください。

■2026年度総会

(と き) 4月26日(日) 14:00~

(ところ) 浪切ホール多目的ホール

■地球村クッキング「エリトリア編」

(と き) 2月22日(日) 10:00~14:00

(ところ) 春木市民センター 実習室

(費用) 800円(会員は500円) *申込受付: 2月3日から。
詳しくは、チラシをご覧ください。

■English Open Café

各国からのゲストをお招きし、英語でプレゼンをしていただき交流を図ります。

(と き) 9月以外の第3土曜日 13:30~15:30

(ところ) マドカホール 3階 視聴覚室

(費用) 無料 (定員) 30名(先着順) *全て当協会事務局へお申込みください。